

未来につながる県教連を目指して!



発行 山口県教職員団体連合会
 代表者 小坂 朝之
 編集人 小坂 暢之
 山口市大手町教育会館内
 電話 (083) 922-2049番
 FAX (083) 921-0907番
 E-mail: kyoren@orange.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.kenkyouren.com



ご挨拶

「情熱」「英知」そして、「団結」

山口県教職員団体連合会
 第30代委員長
 小坂 朝之



会員の皆さまの信
 任により、山口県教
 職員団体連合会の委
 員長2年目を迎えま
 す。山口県下最大の
 職員団体の長とい
 うのは想像以上に重
 大であり、その責任を
 この1年間痛感いた
 しました。しかし、

未来を担う子供たちと山口県教育を支えるべく頑
 張っている県教連会員の皆様のために、微力では
 ありますが、今年度も精一杯努力していこうと思
 いますので、なにとぞ御支援御協力をよろしくお
 願います。

県教連の存在意義を考えると、常にその歴史
 背景が重要な意味をもちます。昭和22年頃の労働
 運動や社会主義運動が盛んな時代に教職員組合は
 結成されます。その後、教職員の多くは一般労働
 者とともに、労働運動、政治闘争へと走り、教育
 現場は混乱の一途をたどります。そして敗戦を迎
 え、GHQの支配の下、戦前の教育は否定され、
 教育現場は、再び混乱していきましました。その混乱
 期中、昭和29年「教育専門職としての自覚をも
 ち、子供たちのことを第一に考えた教育を推進す
 る」という強い使命感をもった先輩方によって県
 教連は誕生しました。こうした歴史背景から見
 てくることは、県教連の存在意義とは、「教育の
 正常化」だということです。偏った考え方にとら
 われることなく、未来を担う子供たちのためのよ
 り良い教育の在り方を考える教職員団体として、
 県教連は存在しています。

そうした昭和20年代の状況と比較して、60年以
 上経過した現在の教育の状況とはどうなっている

のでしようか。諸先輩方のたゆまぬ取組の成果と
 して、勤務条件は多くの改善を得ることができま
 した。だからもう大丈夫ではないかという考え方も
 あるかもしれません。しかし、そうではありません
 せん。現場には周知のとおり今日的な課題が新た
 に表出してきたのです。学力向上、小学校英語の
 推進、道徳の教科化、コミュニケーション・スキル、
 土曜授業や土曜日の教育活動等、数々の教育施策
 は、子供にとって意味のあるものとはいえ、結果
 的に目の前の子供と向き合うという大切な「時間」
 を奪っています。特別な支援を要する子供への対
 応、ネット等を介したいじめや不登校の問題、様々
 な価値観をもった保護者への対応等も、しかりで
 す。こうした課題を解決するためには、学校現場
 の努力だけでは不十分です。また、基礎定
 数の改善などの制度改革が不可欠だと言えます。
 そうした制度に対しての声を、法的な手段に則り
 伝えていく力をもつのが県教連（教職員団体）の
 現代の存在意義だと考えます。

しかし、残念なことはその力に陰りが見えてい
 ることです。教職員年齢のいびつな構成が生んだ
 大量退職と大量採用の時代の中、教職員団体の組
 織率は下降線をたどっています。これからの山口
 県教育を支える若い教職員は、教職員団体の存在
 意義を理解できない（しない）まま、職員団体離
 れを遂げています。その結果が、山口県の教育の未
 来に何をもたらすのかは、これまでの歴史が物
 語っているのではないのでしょうか。

私たち県教連は、教育に対する「情熱」をもち、
 「英知」を結集し、「団結」して、山口県教育の未
 来が明るくなるよう、明るい未来へ繋がる
 活動を続けてまいります。会員の皆さま、県民の
 皆さまには、これからも、県教連へのご理解とご
 協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

より強固な組織を目指して

5月7日に評議員会を開催しました。評
 議員会では、昨年度の活動報告を行うと
 もに、本年度の活動方針を説明したり、定
 期大会に向け議案書を見直したりしまし
 ました。評議員からは、「県は学力向上や体力向
 上等、様々な取組みを打ち出している。現
 場に即した取組みとなるように要望をお願
 いしたい。」や「学習に直結する研修や球技
 大会にフットサルを加えてはどうか。」等の
 提案がなされ、活発な会議となりました。

また、同日午後には、組織対策委員会を開
 催しました。参加者は、各単組の青年部部
 長や女性教職員部長等45名でした。前半
 は、岩野伸哉全日教連委員長を講師に迎え、
 「全日教連の組織理解について」と題して
 講演をしていただき、後半は、5グループ
 に分かれ、「新規採用者を加入させるため
 に」というテーマでワークショップを行
 いました。「4月1日には、事務局から勧誘
 用の冊子が各分会に届いていると、すぐに
 声を掛けることができる。」や「分会では、
 誰が誰に声を掛けるのか作戦会議を開くこ
 とが必要だ。」といった、経験に基づいた
 熱い討議が展開され、様々な提案がなされ
 ました。提案につきましましては、「県教連勧
 誘活動のスタンダード」としてまとめ、会
 員の方々に届けたいです。

浅原県教育長との懇談



4月19日、県
 庁において、浅
 原県教育長と
 今年度の県教連
 の活動方針や事
 業等についての
 説明や山口県の
 教育、現場の状
 況などについて
 懇談をしました。

懇談の中で「今年度、県教連と
 して県教委に、新職として主幹教
 諭・指導教諭の導入を具体的に検
 討していただきたいと考えている。
 これは、全国的に見ても、導入し
 ている都道府県が多い。現在の教
 諭の年齢構成から今後50代の教諭
 が増えていくことは明らかである。

主幹教諭・指導教諭の導入にあわせ
 て昇給の複線化を実現し、さらに給
 与表(一)(二)を統合することで、
 仕事に対するモチベーションを高
 め、それが未来を拓くたくましい『や
 まぐちっ子』の育成に繋がると考え
 る。」と伝えました。

また、事業については、第5回親
 守詩山口大会の後援も要請しまし
 た。さらに、来年度開催される全日
 教連教育研究全国大会山口大会(会
 場・下関)についても、準備が進ん
 でいることを説明しました。浅原県
 教育長からは、「県教連からは、い
 つも重要な提言をいただいている。
 家庭、地域の教育力向上は大切であ
 り、その意味でも、親守詩山口大会
 の開催は、たいへん意義がある。」
 と前向きな話がありました。

ワークショップの様子

新規採用者を
 加入させるために
 県教連勧誘活動の
 スタンダードを作ろう!

